

論文執筆における パラグラフ・ライティング

version. 20260422

日本精神障害者リハビリテーション学会
編集委員会

目次

- スライド 3 精リハ誌の投稿点検リストの確認
- スライド 4-5 パラグラフ・ライティングとは？
- スライド 6-9 パラグラフ・ライティングの例
- スライド 10-11 パラグラフ・ライティングを用いた構成
- スライド 12-15 方法・結果におけるパラグラフ・ライティング
- スライド 16 おわりに
- スライド 17-22 おまけ：論文執筆に役立つ文献の紹介

まずは例を見たいという方は、スライド6から！

精神障害とリハビリテーション 投稿点検リスト

- 1, 2文だけで構成されるパラグラフ（段落）・セクションを設けていない
- 背景と考察は，パラグラフ・ライティングのルールで書かれている

No	項目・内容	当てはまる	該当しない
全ての種類の論文			
1	投稿原稿が二重投稿に該当しないことを確認した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	カバーレターには，利益相反，必要に応じて研究資金や謝辞を記載している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	原稿全体で，箇条書き・体言止めの文章を用いていない（図表や box は除く）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	ほとんどの文章において，1つの文章は3行以内に収まっている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	各文章は，主語と述語，目的語等がはっきりしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6	1, 2文だけで構成されるパラグラフ（段落）・セクションを設けていない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	背景と考察は，パラグラフ・ライティングのルールで書かれている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	省略語を用いる場合，初出の際に正式名称（フルスペル）を記載している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	図表を用いた場合，本文内に図表について説明する記述がある	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10	適切な個所で文献が引用され，投稿規定に基づいた方法で「文献」にリストアップされている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	論文構成や原稿枚数などは，投稿規定を遵守している	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	著者が推定可能な情報（例：倫理委員会／番号・施設名など）を「XXX」などにしている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	投稿前に原稿を最低3回は読み返し，誤字脱字・不適切な記述がないかをチェックした	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
総説・原著・研究ノート			
14	方法や結果は，基本的に過去形を用いて書かれている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15	特別な理由がない限り，図表は結果のセクションだけで用いている	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16	対応する報告ガイドラインを参照して原稿を執筆し，そのチェックリストを添付した	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

上記項目に✓をつけるためには、
パラグラフを用いて執筆する必要があります。

パラグラフとは？

- 文章のまとまり（パラグラフ）を作る作業
- 各パラグラフは、一つの主張（テーマ）のみが記述される
- 各パラグラフの中で、決められた配置で文章を構成する

パラグラフの作成にはルールがある！

ルールに沿った書き方を「パラグラフ・ライティング」と呼びます

パラグラフの構成

種別	内容	ポイント
トピック文	そのパラグラフで伝えたいことを紹介する。	トピック文を読んだだけで、そのパラグラフで伝えたいことがわかることが重要。可能なら引用なしが望ましい。
サポート文	トピック文で紹介した伝えたいことについての詳細や理由が記述される。	先行研究を引用しながら、記述を膨らませることが一般的。
結論文	サポート文の内容が要約され、明瞭な結論が記述される。	トピック文と似ていることもある。また、次のパラグラフへの橋渡しができれば、文章全体がよりスムーズになる。可能なら引用なしが望ましい。

各パラグラフには最低3文が必要！

例文

精神障害者の生活にスティグマは悪影響を与えることから、国際的にその是正が求められている。本稿で言及するスティグマとは、一般市民におけるスティグマを指し、知識の問題（無知）、態度の問題（偏見）、行動の問題（差別）を包含する事象である (Thornicroft, 2007)。スティグマは、就労や結婚、自己尊厳、利用者自身のメンタルヘルスなどに関係するとされている (Thornicroft et al, 2007; Henderson et al, 2013)。よって、スティグマの是正は、精神障害者支援において重要な位置付けとなる。

パラグラフの例

精神障害者の生活にスティグマは悪影響を与えることから、国際的にその是正が求められている。本稿で言及するスティグマとは、一般市民におけるスティグマを指し、知識の問題（無知）、態度の問題（偏見）、行動の問題（差別）を包含する事象である (Thornicroft, 2007)。スティグマは、就労や結婚、自己尊厳、利用者自身のメンタルヘルスなどに関係するとされている (Thornicroft et al, 2007; Henderson et al, 2013)。よって、スティグマの是正は、精神障害者支援において重要な位置付けとなる。

トピック文

サポート文

結論文

パラグラフの例：避けたい書き方1

精神障害者の生活にスティグマは悪影響を与えることから、国際的にその是正が求められている。

本稿で言及するスティグマとは、一般市民におけるスティグマを指し、知識の問題（無知）、態度の問題（偏見）、行動の問題（差別）を包含する事象である (Thornicroft, 2007)。スティグマは、就労や結婚、自己尊厳、利用者自身のメンタルヘルスなどに関係するとされている (Thornicroft et al, 2007; Henderson et al, 2013)。

よって、スティグマの是正は、精神障害者支援において重要な位置付けとなる。

段落を設けすぎ問題！

パラグラフの例：避けたい書き方2

本稿で言及するスティグマとは、一般市民におけるスティグマを指し、知識の問題（無知）、態度の問題（偏見）、行動の問題（差別）を包含する事象である (Thornicroft, 2007)。スティグマは、就労や結婚、自己尊厳、利用者自身のメンタルヘルスなどに関係するとされている (Thornicroft et al, 2007; Henderson et al, 2013)。精神障害者の生活にスティグマは悪影響を与えることから、国際的にその是正が求められている。よって、スティグマの是正は、精神障害者支援において重要な位置付けとなる。

パラグラフ後半を読むまで、伝えたいことがわからない
(起承転結型文章)

背景におけるパラグラフの構成例

第1パラグラフ

XX
XX

課題設定・用語の定義

第2パラグラフ

XX
XX

先行研究で分かっていること

第3パラグラフ

XX
XX

**先行研究で分かっていること、
分かっていること**

第4パラグラフ

XX
XX

研究実施の根拠と目的

考察におけるパラグラフの構成例

第1パラグラフ

XX
XX

研究目的の確認と知見のまとめ

第2パラグラフ

XX
XX

主要知見と先行研究の比較1

第3パラグラフ

XX
XX

主要知見と先行研究の比較2

第4パラグラフ

XX
XX

研究の長所と限界

方法や結果ではパラグラフを用いるのか？

- 基本的にパラグラフを用いる（つまり3文以上必要）
- ただし、トピック文・サポート文・結論文という形はとらないことも多い。

方法や結果においても1,2文で終わるパラグラフを作らない！

1,2文で終わるセクションがある場合には、前後のセクションをまとめる。

方法におけるパラグラフの例1

×避けたい例

本研究は以下の変数を測定した。

- ・ 基本属性
 - 性別
 - 年齢
 - 臨床経験年数
- ・ 曝露
 - 根拠に基づく実践の経験
- ・ アウトカム
 - 社会的距離尺度
 - リカバリー尺度

○良い例

本研究は、研究の目的に沿って、各変数を測定した。具体的には、基本属性に関する質問は性別や年齢、臨床経験年数についての項目を含んだ。また、曝露として、根拠に基づく実践の経験を尋ねた。さらに、自記式尺度の社会的距離尺度とリカバリー尺度を用いてアウトカムであるスティグマを測定した。

箇条書きは用いず、「文」章で記しましょう！

方法におけるパラグラフの例2

×避けたい例

○参加者

本研究では、デイケア利用者を対象とした。

○同意手続き

リハビリ病院デイケアのスタッフが利用者に調査について説明をした。書面による同意を得た利用者が調査に参加した。

○良い例

○参加者と同意手続き

本研究では、リハビリ病院のデイケアの利用者が対象となった。具体的には、デイケアスタッフが同デイケアの利用者に対して、調査の説明を行った。書面による同意を得た利用者が調査に参加した。

1,2文だけのセクションを設けず、3行以上以上のセクションを設けましょう！

結果におけるパラグラフの例

×避けたい例

本研究の結果を以下に示す（表1）。

- ・ 女性：50%
- ・ 平均年齢：30.6歳, SD = 11.1
- ・ 平均臨床経験年数：9.6年, SD = 2.1

○良い例

表1は、本研究の対象者の属性を示している。女性は全体の56名（約50%）であった。また、平均年齢と平均臨床経験年数は、それぞれ、30.6歳（SD = 11.1）と9.6年（SD = 2.1）であった。

論文は「文」です！

プレゼン資料と異なるので、文章で方法・結果を説明

図表を用いる場合、必ず主要点を説明！

「○○は表に示されている」だけで説明を終わらせるのはNG

おわりに

- 本資料で紹介した内容は、基本的な内容と例示です。
- パラグラフ・ライティングをしたからといって必ず原稿が受理されるわけではありません。
- しかし、パラグラフ・ライティングをしない原稿は、査読に回らない可能性も高くなります。

おまけ：論文執筆に役立つ文献の紹介

- 次スライドから、主に無料でダウンロード可能な論文執筆の基本スキルを紹介する文献を紹介いたします。
- 精リハ誌に投稿をご検討されている方に、紹介する文献を必ず読むことを条件とする意図はありません。
- 一方で、調査論文の基本的なスキルを理解・実践できると、論文受理の可能性が高まります。
- また、論文の質の向上を狙いとする査読者からのコメントも、論文の体裁ではなく内容に焦点を当てることができるようになります。

1. 論文全体

- 小山哲男: 論文執筆のコツ : 論理と図の構成. 日本歯科麻酔学会雑誌, 50;14-18, 2022. https://doi.org/10.24569/jjdsa.50.1_14
- 早川智: 初学者のための医学論文の書き方. 日大医学雑誌, 82;277-285, 2023. https://doi.org/10.4264/numa.82.5_277
- 木村裕一, 福岡豊: 超入門 : 論文執筆の作法. 生体医工学, 63;111-115, 2025. <https://doi.org/10.11239/jsmbe.63.111>

2. パラグラフ・ライティング

- 三木幸雄: MR関連英語論文における文章構成法. 日本磁気共鳴医学学会雑誌 40(4):129-142, 2020. <https://doi.org/10.2463/jmrm.2020-1715>
- 高橋良子, 飯島淳, 野田直紀, 他: 医学英語ライティング教育1: パラグラフ・ライティング. 日大医学雑誌, 78;281-284, 2019. https://doi.org/10.4264/numa.78.5_281
- 高橋良子, 飯島淳, 野田直紀, 他: 医学英語ライティング教育2: パラグラフ・ライティングによる化学実験レポート. 日大医学雑誌, 78;337-340, 2019. https://doi.org/10.4264/numa.78.6_337

3. 図表の作成

- 荒瀬康司: 科学論文での図表作成のルール. 人間ドック, 38;659-676, 2024. <https://doi.org/10.11320/ningendock.38.659>
- 西村美里, Majumder K: 一目で伝わるからこそ誤解も招きがち！？図表のミスに要注意. 日本機械学会誌, 122;46-47, 2019. https://doi.org/10.1299/jsmemag.122.1213_46

※こちらの論文はわかりやすいですが、**図表を使う際には本文内で必ず図表の説明が必要**ですので、ご注意ください（論文内で紹介されている方法は簡易すぎます）。

4. 査読への対応

- 廣川俊二: 研究論文の書き方 (2) : 査読者の本音. バイオメカニズム学会誌, 38;151-154, 2014. <https://doi.org/10.3951/sobim.38.151>
- 石川ひろの, 藍木桂子, 植田仁美, et al: 査読コメントへの対応方針10箇条: 投稿リテラシーを高めるために. 保健医療社会学論集, 27;106-109, 2017. https://doi.org/10.18918/jshms.27.2_106
- 西村美里, Majumder K: How to respond to comments by peer reviewers : 丁寧に、正直に。査読者コメントへの対応のコツ. 日本機械学会誌, 123;44-45, 2020. https://doi.org/10.1299/jsmemag.123.1218_44

5. その他

- アメリカ心理学会（訳：前田樹海, 江藤 裕之）：APA論文作成マニュアル 第3版. 医学書院, 2023.

<https://www.igaku-shoin.co.jp/book/detail/108870>

※有料の書籍となります。